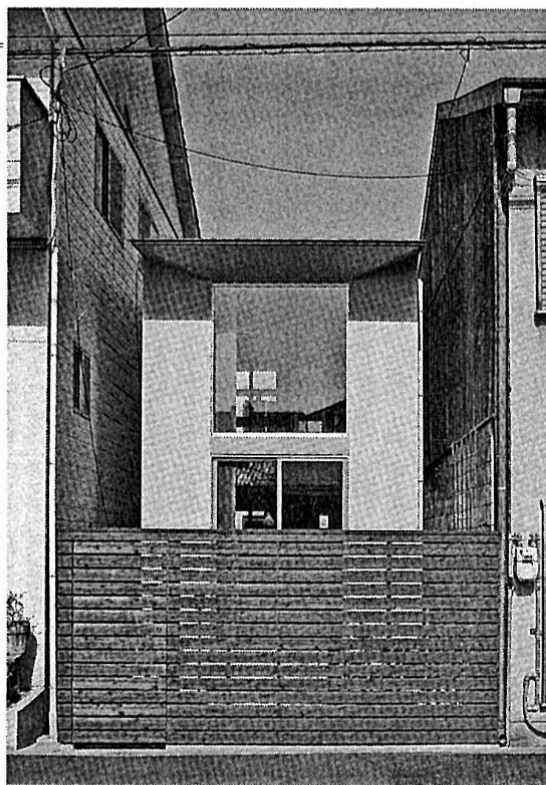


◎ペットと暮らす家（K邸減築工事）（中央区） 建築主は個人、設計者は（株）Y設計室、施工者は（株）岡部工務店

【講評】建坪率100%近くの古い木造住宅が建ち並ぶ街区の借地にこの住宅は建っている。裏には幅2mにも満たない路地が走る。この特殊ともいえる場所、車を持たずに、犬猫と暮らす小さな道りに減築建て替えしたところに、この住宅の新規性がある。ペットとの共生を、余分なものない減築の手法で考えることは、これからの人口減少社会における高齢化対応住宅のあり方にも示唆を与えてくれる。ここでは、必要以上に建物の立派さや、維持管理性は追求していない。犬1匹と猫9匹を友達にして暮らすという幸せを大事にしている。犬は前庭と大走りを回遊し、猫は猫走りや猫階段を縦横に疾走できる。消臭性のある内装塗壁の素材は、建て主が探し出したものだという。手作り感のある立体的な空間の広がりを楽しむ。



〔住宅の部〕

大賞

〔一般建築の部〕



優秀賞

〔一般建築の部〕



◎東比恵ビジネスセンター（博多区） 建築主は福岡地所（株）、野村不動産（株）、設計者は（株）竹中工務店九州一級建築士事務所、施工者は（株）竹中工務店九州支店
【講評】今後の発展が期待されている福岡市東比恵地区の貸ビルである。注目すべきは、ビル全体にCASSBEE（建築物総合環境性能評価システム）に適合させる省エネや省資源対応の環境負荷削減を実践していることである。なかでも、外装プレキャストパネルは、熱負荷の低減と建設の経済的合理性を向上させる緻密なアイデアにあふれている。昨今の全面ガラスのカーテンウォールのビル表層と趣を異にした、独創的な都市景観ランドマークとして評価されよう。また、公開空地を利用した植栽と景観照明のある庭園整備や壁面緑化、地下鉄と接続する出入り口周りの建築的一体化、店舗ファサードと看板の統合などにも好感がもてる。一見地味な印象のデザインではあるが、都市活動の快適性と建築の環境性能に必要な空間の秩序形成に対して、きわめて的確な仕様の解決を示している。

福岡県は、第22回福岡県美しいまちづくり建築賞を決定した。県内の個性豊かで美しく、良好な景観を形成する建築物を表彰し、美しいまちづくりに対する県民意識の醸成を図ることを目的としているもの。第22回の募集は、昨年8月1日から31日まで行われ、応募総数81件の中から選考委員会（委員長・工藤卓近畿大学教授）で審査を行い、それぞれの部門から大賞、優秀賞各1件、（財）福岡県建築住宅センター奨励賞2件を決定した。今回は景観の形成に寄与し、建築計画において優れているものの中から、特に「住宅の部」では、将来の生活プログラムと敷地環境とがうまく調和している作品、「一般建築の部」では、景観と環境と空間に対し高度な設計コンセプトを展開する作品が受賞している。表彰式は3月7日、九州国立博物館で開催する福岡県景観大会で行う。受賞作品は、次のとおり。

高度な設計コンセプト展開、環境性能評価向上

「住宅の部」の現地審査では、与件となる将来の生活プログラムを、敷地環境に照らし合わせて丁寧に読み解いた設計が多く、いずれの作品でも、依頼主の方々がとても満足され、残っていることが印象に残る。総評「一般建築の部」は、景観と環境と空間に対して、極めて高度な設計コンセプトを展開する作品となっていて、特に、設計事務所の組織力を駆使した環境性能評価向上の技術力には強い関心を持つことができた。